

広報

うわじまちくしょうぼう

第60号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
<http://www.119.uwajima.ehime.jp>

平成18年中の火災・救急速報

火災

平成18年中に宇和島地区管内で発生した火災は37件で、前年の45件に比べて8件減少しており、また広域消防発足(昭和54年)後、最も少ない件数となりました。

火災種別による出火件数は、建物火災23件、林野火災1件、車両火災8件、船舶火災3件、その他火災2件となり、建物火災の出火率が群を抜いた状態で、全体の62%を占めました。

救急

救急車の出場件数は4,563件で、前年に比べて109件増加しており、1日あたりの平均出場件数は約13件でした。搬送人員においても4,428人で、前年に比べて122人の増加となりました。

事故種別で多いのは、急病2,890件、一般負傷628件、転院搬送483件、交通事故408件でした。



「消さないで あなたの心の 注意の火。」

平成十八年度全国統一防火標語

春の火災予防運動

三月一日～三月七日



防災とボランティアの日

防災とボランティア週間

一月十五日～一月二十一日

一月十七日

平成七年一月十七日に発生した「阪神・淡路大震災」を契機として、災害ボランティア活動の役割が再認識され、多くのボランティアが自主的な活動を展開し、その役割が大きくクローズアップされました。

平成七年十二月、政府・地方公共団体等防災関係機関をはじめ広く国民が、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることを目的として『防災とボランティアの日』及び『防災とボランティア週間』を創設しました。

これに伴い、宇和島地区管内においても、梯子車搭乗体験・起震車による地震体験などのイベントを開催し、PRに努めました。



宇和島城防災訓練

1月26日



昭和二十四年一月二十六日早朝、奈良県の法隆寺で解体修理中の金堂が火災になり白鳳時代(七世紀末から八世紀初期)に描かれた十二面壁画が焼損し社会的に大きな衝撃を与えました。その後も文化財の火災が多発したため先人たちが残した文化財を火災から守ろうという世論が高まり、昭和二十五年に文化財保護法が制定され、その後昭和三十年から一月二十六日を『文化財防火デー』とし、防火施設の点検と整備を行うとともに、消防訓練など文化財を火災から守る運動を展開することとなりました。

この運動では、文化財は木や紙などの可燃物で造られているものが多く、一度火災になると大きな損害を受ける危険性が高いため運動を通して火災予防を呼びかけ、文化財の保護と愛護思想の普及を図るものです。

また、宇和島市

では、毎年一月二十六日に城山全域において防災機関、民間協力団体及び地域住民が一体となり、避難訓練を実施してまいります。



FIRE PREVENTION

～ 火災原因から見た対策 ～

放火による火災を防ぐポイント

放火による火災は、深夜人目を避けて、無造作、発作的に行われます。家の周りに燃えやすい物を置かないなど、「放火されない環境づくり」が大切です。

- 家の周りに燃えやすい物を置かない。
- 物置、車庫には必ず鍵をかける。



こんろによる火災を防ぐポイント

こんろにかけた天ぷら鍋を放置し、火災になるケースが増えています。電話や来客の対応をするチョットした間でも必ず火は消しましょう。

- 電話や来客の際は、必ず火を消す。
- 器具の周囲に燃えやすい物は置かない。
- ゴム管には「止め金具」をつける。
- 古いゴム管は早く取り換える。



たばこによる火災を防ぐポイント

何気なく吸っているたばこの温度は約700℃。喫煙マナーを守って、喫煙後は消火を確認する習慣をつけましょう。

- 必ず灰皿のあるところで吸う。
- 吸殻は完全に消す。
- 吸殻は火が消えたことを確認して捨てる。
- 寝たばこ、くわえたばこ、投げ捨ては絶対にしない。
- 灰皿の中には、水を入れておく。



ストーブによる火災を防ぐポイント

ストーブは私たちにとって欠くことのできない暖房器具です。しかし、チョットした不注意や油断から、火災になってしまいます。十分注意しましょう。

- 必ず説明書を読み、正しく取り付ける。
- 燃えやすい物の近くや、物が落下するおそれのある所では使用しない。
- 外出する時や寝る時は、火を消す。
- 給油や持ち運びは、必ず火を消してから行う。



火遊びによる火災を防ぐポイント

子どもは好奇心が強く、火に対しても例外ではありません。子どもが火に対して関心を示したら、叱るだけではなく、火の大切さや恐ろしさを教え、正しい知識を与えることが大切です。

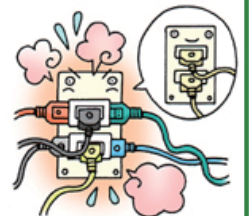
- マッチやライターは子どもの手の届く所に置かない。
- 花火遊びは、水バケツを用意して、必ず大人が付き添う。
- よその子どもでも、火遊びしているところを見たら必ず注意する。



電気による火災を防ぐポイント

日常生活に便利な電気器具も、ちょっとした不注意から火災を引き起こします。なくてはならない生活の大切な道具ですから、正しい取り扱いを心がけましょう。

- 電気器具の使用後はプラグを抜き、決められたところに片付ける。
- タコ足配線はしない。
- 電熱器のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 電気配線の上に重たいものを置かない。



火災を早期発見するために 住宅用火災警報器を!!

火災で重要となるのが、早期発見です。火災が発生したことをすばやく察知することができれば、いち早く避難することが可能となり、命が助かる可能性も高くなります。

住宅用火災警報器では、火災発生に伴う熱や煙を感知してブザーで危険を知らせるもので、火災の早期発見に非常に役立つ防災機器です。

総務省消防庁は最近の住宅火災による死者数急増等を踏まえ、消防法を改正し、一般の戸建住宅等に住宅用火災警報器の

新築の住宅等 ... 平成18年6月1日から

既存の住宅等 ... 平成23年5月31日まで



詳細についての問い合わせは、消防本部予防課にご確認ください。TEL 22-7501